



また必ず戻ってきたい！

初挑戦！

↑こんないい席でプロの試合を観ることができるなんて、すごい感動した。

8月29日(月)

●12時間も苦手な飛行機に乗ってようやくニューヨークに到着。一番心配だった飛行機酔いもせず普通の状態でした。

●ホテルに荷物を置いて、セントラルパークを少しランニング。着替えてからついにUSオープン本戦の会場へ。地下鉄に乗って1回乗換えをすると、右にアーサー・アッシュ・スタジアムが見えてきた。テレビで見てもはるかに大きい！初日もかわらずたくさん人がいた。日本でもこんな大会をやってほしい！すごく感動した一日だった。

8月30日(火)

●時差ボケがあつて、朝からきつかった。

●午前中はマンハッタンラケットブラザというところで練習。

●昼飯を食べてから会場に行つてエナ、フェレロ、ロクスの試合を見た。ロクスはめちゃくちゃ小

↑公園でウォーミングアップ。時差ボケ解消が最初の課題だった。



↑アメリカの食になかなか馴染めず、苦労した。
←日本での強化合宿を指導してくれたのはポール・セダノ・コーチ。

[高体連派遣]

USオープン・ジュニア予選

仁木拓人(竹園高校3年)の海外遠征日記

子供の頃からの夢だったグランドスラムの舞台へ。
USオープン・ジュニアの本戦出場をかけて予選にチャレンジした高校代表、仁木拓人の海外奮戦記。

文=仁木拓人 取材協力=アメアスポーツ ジャパン(株)

日本選手団

団長/矢野智(全国高等学校体育連盟テニス部副部長)
監督/馬瀬隆彦(同連盟副部長)

予選RESULT

※()内の数字はITFランキング

仁木拓人(1548位)
1R ●3-6、3-6 会田翔
(85位/湘南工科大学附属高校2年)
濱崎歩(861位/長尾谷高校2年)
1R ●3-6、1-6 E.コスミンスカヤ
(113位/ロシア)



[解説] 3月に福岡で行われた「第27回全国選抜高校テニス大会」の個人戦。男子決勝は会田と仁木が争い、会田が6-3、0-6、6-2で仁木を破って優勝し、USオープン・ジュニア予選出場権を獲得した。その会田は、このUSオープンは個人ランキングで出場し、代わりに仁木が出場することになった。ところが、そのふたりが本番でも対戦するという偶然のドロウとなった。会田は結局、この予選を勝ち上がって本戦出場(1回戦敗退)を果たしている(関連記事が118ページに)。

スケジュール

8月25日(木) - 28日(日) 強化合宿
8月29日(月) 日本発、同日ニューヨーク着
8月30日(火) - 9月1日(木) 3日間、練習
9月1日(木) 予選サインイン(エントリーする)
9月2日(金) 予選1回戦
9月3日(土) - 6日(火) 試合観戦他
9月7日(水) ニューヨーク発
9月8日(木) 日本着



アーサー・アッシュ・スタジアム。

8月31日(水)

●午前中3時間練習。ウィルソンの方がヒッティングパートナーとして藤解さんという方を紹介してくれた。今日はとても風が強くコートにボールを入れるのがたいへんだっただけ、試合でもこういう状況があると思って集中して練習した。

9月2日(金)

●試合当日。普通に朝飯も食べた。竹内研人と練習。途中で外人ふたりが割り込んできたりしたが、無事に練習を終え、着替えをして集中した。とうとう試合開始。試合相手は会田翔。

●ファーストセットはお互いサーブスキップ。しかし1-2のとき、自分のサーブゲームを長いデュエスの末に落として1-3となり、相手に流れがいきかけた。すぐにブレイクバックして2-3とした。次のサーブゲームでもデュエスとなり、ブレイクポイントを取られたがそこで攻めて、今度はゲームポイントをつかんだ。ここでも守らずファーストサーブでエースを取りにいって、相手がやっと当ててリターンした。そのとき

●午前中2時間練習。
●昼飯を食べたあと、予選のサインアップに行った。選手専用の入口から入って、書類を書いて、IDカードやタオルをもらった。IDをもらってUSオープン・ジュニアの選手になったんだということを実感。

●自分のサーブゲームを長いデュエスの末に落として1-3となり、相手に流れがいきかけた。すぐにブレイクバックして2-3とした。次のサーブゲームでもデュエスとなり、ブレイクポイントを取られたがそこで攻めて、今度はゲームポイントをつかんだ。ここでも守らずファーストサーブでエースを取りにいって、相手がやっと当ててリターンした。そのとき

●負けたことはとても悔しかったし、自分のテニスでできたわけではなかったのが悔が残ったけど、USオープン・ジュニアでプレーできたことはこのあとのテニス人

生に必ず生きると思った。

9月3日(土)

●朝から試合を観た。最初はタメになると思ってたが、ジュニアの予選決勝を観ていたけど、観ているとやっぱり悔しくなってきたから、プロの試合を観ることにした。ギヤスケとルビッチの試合を観て、ギヤスケのテニスにすごく憧れた。ラリーにベースがあつて、打ち込みもあつてネットにも出て、目指したいテニスだと思った。

●お昼からはすごいチケットをもらつてしまった！アーサー・アツシ・スタジアムの2列目の席だ！そこでブレイクとナダルの試合を観た。ブレイクはすごく調子がよさそうで、ナダルのスピンボールをライジングで上から打ちまくっていた。近くで観られて本当に感動した。

9月4日(日)

●錦織の1回戦を観た。予選と



「いいよ、試合、それほど緊張せず、平常心で臨むことができた。僕の試合に観に来て、観るさんもコートへ入った。」



9月5日(月)

●昨日よりはだいぶ体が楽になったが、今日はホテルで休みながら、

違つてすごいプレーをしていて、大舞台で焦らないのがすごいと思つた。

●少し熱っぽかったのでホテルに戻つた。

テレビでフェデラーとキーフアーの試合を観た。キーフアーがすごく攻めていて、フェデラーは押さるれ気味で、一瞬、負けてしまつたのではないかと思つたが、第3セットをしのぐと、次のゲームでワンチャンスを生かしてブレイク、あとはしっかりとキープしてセットを取つてしまつたところがすごいと思

つた。やっぱり苦しいサービスゲームを取っていくと最後には流れがくるということだ。

9月6日(火)

●熱はほぼ下がって街へ。

●夜はシラボワとベトロワ、クライスターズとウィーナスがやっていた。シラボワとベトロワはお互い負けたくないという気持ちでぶつめたすごい試合だった。

9月7日(水)

●いいよ帰国。JFK空港でベンチに座つていろいろ考えた。こつちのハードコートはよく弾

むし、ボールも軽くて、スピンのかかった高い弾道のボールがすごく有効だった。プロの試合やジュニアでもサーブがすごく、大事なポイントでエースを取つたりしのいだり、セカンドサーブもなかなか打ち込めないようなサーブを打っていた。やっぱりサーブが大事な。日本でプレーして

いるとオムニコートの試合が多いから、弾道が低いテニスをしたい。まいがちだけど、しっかりと高い弾道で、相手を押し込めるスピンを打つということ、打ち込めるボールをしっかりと打ち込まなければいけないと思つた。

●最初から最後まで感動しっぱなしの遠征。今回の経験を生かして、またUSオープンに戻つてこれら

日本選手団・矢野智団長による大会総括

「日本を立つ前に4日間の強化合宿を行い、ニューヨークについてからもやるべきことはやって試合に入れることができた。まさか会田と仁木が1回戦で当たるとは思わなかったが、仁木はセンバツのリベンジを誓っていた。しかし会田は一度リードを許しても、そこで引き離されないとところがさすがだった。濱崎は、相手の攻めるタイミングの速さから、競らせてもらえなかった。これは課題となっただろう。ふたりとも敗れたが、自分の限界を感じてダメだと思ったのではなく、来年もまた出たいという前向きな気持ちを持ったようだ。これはよかった。ただし、遠征中の生活を見て気になったのはふたりとも食生活を改善しないといけない。好き嫌いが目立ち、特に食が細すぎる。これは世界で戦うための体作りの大きな妨げになり、またそういう面はテニスに必ず出るものだ。ぜひ改善してほしい。世界の選手は日本の選手と見た目に遜色ないが、しかしワンショットに対する集中力の高さは明らかに違う。ボールに魂を込めていることが見て取れる。それらを肌で感じとった両選手の今回の遠征はたいへん貴重な経験であり、今後の人生に生かしてほしいと思っている」

がとうございしました。